

和名倉百年の森

wanagura hyakunen no mori

NPO 法人百年の森づくりの会

2009
10.1

18号

目次 別子と足尾・・・1／和名倉山森づくり報告・・・2／長瀬苗畑作業報告・・・3／山吹沢植生調査・・・4／山縣農場・究極の森を訪ねる・・・5／長瀬宝登山下刈り・・・6／百年の森コンサート・・・6／山吹沢植林活動報告・・・7／2009年下期活動スケジュール・・・8

別子と足尾

NPO 法人百年の森づくりの会理事長 内藤 勝久

任意団体百年の森づくりの会（当会の前身）が発足して2年後の2002年5月、私は元の会社の同僚と別子銅山を訪れた。愛媛県の別子銅山精錬所の跡地に百年前に植栽された樹木が、どのような森を造っているかを確かめるためであった。百年後の森を私は見ることが出来ない。会員をそして自らを説得できる確たる証拠が欲しかったのである。

新居浜のホテルからタクシーで東平（とうなる）まで行き、そこから登山が始まる。銅山峰ヒュッテを越え、峠に立つと前方に見事な森が広がっていた。一部に焼け爛れた斜面が残っていたが、かつてはそこが禿山だったとは思えないほど深い緑に覆われていた。峠を下ってさらに進み、仔細に観察すると天然更新の樹木が立派に育っているのではない。

1893年精錬所から排出される亜

硫酸ガスの煙害が問題となった。これを解決するために、精錬所を瀬戸内海の無人島四阪島へ移転することを決意した支配人伊庭貞剛（いば・ていごう）号は「幽翁」は、煙害と燃料のための伐採で丸裸になった別子全山を「旧のあおあおとした姿にしてこれを大自然にかえさねばならない」との国土報恩の確たる信念のもとに大造林計画を樹立したのだった。亜硫酸ガスの煙害は、足尾銅山とともに日本初の公害問題といわれる。

足尾銅山の鉍毒問題を解決すべく奔走した田中正造は、伊庭貞剛と共に1890年の第一回衆議院議員選挙で当選した衆議院の一期生であるから、東の足尾、西の別子といわれた銅山の公害問題については様々な情報を持っていたに違いない。しかし足尾の公害対策は進まず、遂には谷中村の廃村という最悪の事態を招く結果となった。

1897年に始まった足尾の植林は今も続いているが、全山の植林が完了するまでにはまだ相当の歳月が必要であろう。別子のようにしつかりした理念と計画に基づいて植林を始めていたら、今頃は立派な大森林が現出していたに違いない。公害問題には迅速な初期対応が如何に大切であることを示す好例であろう。

幽翁は近代住友の祖といわれ多くの会社の経営に携わってきたが、この植林事業こそ自分の求めていた事業であると述懐している。「或るひとつの目的を確乎と握って、一代で出来ねば、二代でも、三代でも懸けてやる位の決心」で、この大事業に取り組んだことは想像に難くない。

私も幽翁のこの決心を胸に刻み百年の森づくり運動に取り組んでいこうと思う。

2009年度上半期

和名倉山森づくり報告

昨年度は、和名倉山森づくり事業の担当である私（高岡）が全国高等学校総合体育大会（インターハイ）埼玉登山大会の関係で積極的に動けず、申し訳ありませんでした。ただ、このインターハイの仕事を通して、秩父小鹿野地区の多くの方と交流ができましたし、埼玉岳連など、たくさんの方と知り合えました。今後のこの事業の推進のため大変な財産ができたと思っています。今後ともよろしくお願いいたします。

今年度上半期の事業報告をいたします。

今年度は雪が少なく、事前調査（3月）においても、積雪はありませんでした。ここより標高の高いところは降雪が少なかったものの、雪が融けずに夏まで結構な残雪があるようです。

小屋開きでは、昨年完成させた小屋下のフォレストベンチにポット苗を植林しました。ネットはこの時点では支柱を立てずに、苗を覆うように設置しました。その後5月の観察では、葉が茂り、やや窮屈そうでしたが、8月の観察では多くの苗が葉を落としていました。

上部「一步の森」植林地では、昨年ネットが壊れ、鹿にかじられた苗も順調に葉を茂らせていました。成長には十分な日差しが必要ではな

いかと思われれます。今回は一部の修復をし、下草刈りをしました。

実は仁田小屋の屋根からの雨のしずくが、ちょうどテラスの手すりに当たる状態でしたので、その部分だけ雨トイをつけることにしました。フォレストベンチのおかげではしこを固定でき助かったのですが、かなり高いところでの不安定な作業でした。

植林活動としては、「一步の森」の一番奥のネット内に30本、ネット外に30本のポット苗を植林しました。8月の観察では9割が葉を茂らせていました。また、次の植林地として仁田小屋の頭（1555m）直下の日当たりのいいところを考え、下草刈りははじめました。地球温暖化を考慮して、本来よりやや高いところに植林してみようという試みです。

今年の夏の集中豪雨で、小屋手前のブナの仮植地の土砂が流されてしまいました。ここの修復が必要です。さらにフォレストベンチにも亀裂が入っていますので、修復が必要だと考えています。

5月に和名倉山に上ったところ山頂に「仁田小屋尾根」の登山道を示す道標が立っていました。また、イヌブナ平にも同様な道標がありま



右上からフォレストベンチの植林 1・2/フォレストベンチの苗/仁田小屋雨トイの設置/「一步の森」
下草刈り/シカ柵補修

た。この仁田小屋尾根のルートは「百年の森づくりの会」としてはあくまで植林活動の作業道として整備しなおし、使っているもので、登山道として整備したものではありません。このことは旧大滝村および県の環境管理事務所と約束してあります。ただ、この仁田小屋尾根ルートはインターネットに詳しく書かれてありますし、2009年版エリアアマップのコース案内にも記載されています。それは、県界をまた

がない埼玉最高峰の和名倉山が「日本2000名山」として掲げられ、登山者が増えていることと関係しているようです。以上のような現状がありますので、和名倉山の登山ルートについて考えなければならぬ時期ではないかと考えています。森づくりの広い視点から、和名倉山の自然環境・保護にしっかりとかわっていきたいと考えています。

2009年度上半期

長瀬苗畑作業報告

植生・苗畑担当 市川 嘉一

5月17日(日)/参加者10名

作業内容「ポット苗の移し替え、耕運機が入らない部分の除草。」

作業の結果、水上ブナの苗場は除草されてきれいになりました。蔽いのない畑地の苗場もサワグルミ苗22本を残して整理し、イヌブナ苗183本、クヌギ苗65本を牛乳パック苗に仕立てました。また、次週の和名倉植林用の苗として、イヌブナ苗45本、ミズナラ苗15本を選別し、5月30日の埼玉県植樹祭用に、クヌギの牛乳パック苗72本を選別しました。

次の実生苗採取の時には、採取組と苗畑作業組に分かれて取り掛かろうと打ち合わせて解散しました。

6月7日(日)/参加者6名

作業内容「除草、苗の移し替え。」

今日は実生苗の採取は中止となり、苗畑の整備作業のみの活動となりました。

少人数でしたが、6月24日に耕運機が入っており、水上ブナの苗場にもあまり草が多くなかったので、予定していた作業を終えることができました。

仕立てた牛乳パック苗は、クヌギ79本、サワグルミ39本、シラカシ6本でした。



上：小屋手前のブナ仮植
下：イヌブナ平の道標

7月12日(日)ノ参加者8名

作業内容ニ除草(水上フナ苗場、畑の周囲)かなりの雑草だったので、除草作業のみとなりました。

地植えしたシラカシの苗は除草して囲い、秋に牛乳パックに植えつける予定です。

小林さんが、畑で取れたジャガイモをふかして持ってきてくださり、おいしい休憩時間となりました。

今回は10月18日の予定で、ドングリ拾いと同日開催の予定です。

除草後には、ドングリを植えるための苗場を作る予定です。



第4回山吹沢植生調査を実施

2003年、山吹沢県有林で植生活動を開始以来2年ごとに植生調査を行い、人工林伐採跡地と隣接する自然林との植生の推移を調べてきました。

8月27日、すでに設置してある1区(人工林皆伐地中央部)、3区(自然林と接する人工林伐採跡地)、4区(自然林)の方形区(10m x 10m)の植生を階層ごとに調べました。牧野先生と田島さんが調査にあたり、市川が記録を担当し、参加者は四隅に立つなどして調査をサポートしました。1区はクサギ・オオバアサガラ低木林、3区はオオバアサガラ低木林で、陽樹による低木林化が進行していました。4区のサワグルミ林には大きな変化はありませんでした。なお、超音波樹高測定器による計測の結果、サワグルミの樹高は28mと分かりました。



上：優占するオオバアサガラ
左上：マネキグサ
左下：ツルニンジン



上：第3区の調査
下：第4区サワグルミの樹高測定

第9回エコサロン春の公開講座

「山縣農場、究極の森を訪ねる」

恒例の春の公開講座は積極的に森づくりを推進している各所の活動家を訪ねている。今回は5月9日に栃木県矢板市にある山縣農場「究極の森」を訪ねた。参加者は14名。当日の山縣農場代表山縣睦子氏の懇切丁寧な案内と解説にまずは感謝したい。

山縣有朋から受け継がれている貴重な森を育てつつ、かつ林業経営を継続していくには事業の難しさを克服する工夫が必要である。「そのためにはどこで何に使われるのか製品目標を見極め、それを満足させる良質な木材にこだわって育林していく」という理念を貫く。」と強調されていた女性林業家山縣睦子氏の強い心が参加者全員に伝わった。

この理念に基づく工夫と試行錯誤の例を挙げれば、ヒノキ、スギの優良銘柄苗の栃木県内外から導入、挿穂育苗法の早期実施、間伐の時期・間隔の試験試行、枝打ちの時期・技法の試験試行など。その成果としてこの40haあまりの森には、ヒノキ良質材生産林においても、スギ高林齢大径木生産林においても、節目もなく真直ぐで上下太さの変わらない樹木が整然と立つ美しい森が広がっていた。これこそ『究極の森』である。ここから生産される木材は良質材として高い評価を受け、県内外に出荷されて

いるとのこと。また実験林として二段林（皆伐せず上林を残したまま、間伐スペースに下林を植栽）の箇所もあり、今後の有効性を調べていく試行が今も続けられている。

この訪問を通じ、この農場がこれからの日本の林業のあり方、存続、発展に強いメッセージを与えていることを学んだ。そして当会の森づくり活動も地域の林業家との連携がなおいっそう重要であることをあらためて考えさせられる。この農場の創始者山縣有朋のイデオロギ―「農は国家経済の基本」は二十一世紀の日本の将来にも基本でなければならぬ。新しい政権にもこの基本に基づき国づくりを期待したい。

埼玉エコサロン担当 吉田兼紀



上：山縣有朋記念館前にて
下：ヒノキ良質材を育てる枝打ちを語る山縣睦子氏
左：樹形の美しいスギ高林齢大径木生産林

長瀬宝登山下刈り

宝登山植林担当 野澤和雄

6月14日、8月23日二回下刈りを実施。



8月30日 皆野町文化会館 第8回百年の森ふれあいコンサート

晴天に恵まれた当日は、衆議院の選挙と重なったにもかかわらず三〇〇名を超える来場をいただきました。「コール四季」と5人の桐朋OB・OGは、入念な音合わせの後、会場いっぱい訪れた聴衆をクラシックの世界にいざないました。

会場ホールには、当会のこの1年間の活動報告の写真といっしょにどんぐりから育てた苗が葉を大きく繁らせたのが印象的でした。すでにどんぐり募金には、多額の浄財を寄せていただいています。今年はホールの都合でどんぐり拾いが間にあわず、育苗をお願いする種が一つもない状況でしたが、自宅の庭に蒔いたどんぐりが威勢よく育って掘れないので来てほしいという要望が二つもありました。秋口には苗を回収し山に戻す予定です。どんぐりの育苗による森づくりの循環が機能し始めました。



山吹沢植林活動報告と秋の観察会 整備作業のご案内

山吹沢植林担当 田 島 克 己

四月十二日、山吹沢にブナ215本を植林

県有林山吹沢での植林活動は、今年で7年目になります。今年も彩の国生きがいで大学の皆さんやグリーヘルスウォーキングクラブの皆様など38人の方々に協力していただき、山吹沢の比較的地味の良いエリアに215本のブナを植えることができました。苗は、樹高2mから3mの19年生のものを植林前日日本大学水上圃場から提供していただきました。好天に恵まれ、芽がふくらみ始めた早春の爽やかな山の息吹を感じながらの作業となりました。

今回の植林作業の準備にあたっては、支柱に必要な竹材確保をかねて、三月下旬に秩父市内

の竹林整備を実施。また、植林地の地拵えは、

長年山吹沢一帯の森林作業にたずさわってこられた地元中津川の方の協力をいただきました。標高1000m〜1200mの山吹沢の付近の森林植生は、ミズナラ・クリ群落とその上部にイヌブナの群落、更に尾根部の安定した地形のごく一部にブナが存在していますが、人工林伐採後の跡地では、クロモジ・アオダモ・ツノハシバミ・シナノキ・オオバアサガラ・ヌルデ・アワブキ・コシアブラ・ミツバツツジなど多様な木本の成長がみられます。地拵えでは、植林に支障のない範囲で、これらの樹種を残し、大きく株立ちしたクリは中心になる幹を残して

整理を行いました。主な木々の一つ一つに、木札をつけてくださった地元の方の心配りは、大変ありがたいものでした。これからの森づくりの生きた教材として役立てていくことができます。

十一月一日(日)観察会と整備作業

十月末から十一月初めにかけて、山吹沢は、美しい紅葉につつまれます。植林を始めてから7年が経過し、植栽したミズナラやブナの苗の一部には、ツルが巻きついたり、シカの食害を防ぐために設置したネットに枝を絡ませたりするものがあり、今後の生育が心配されます。

十一月一日(日)、下記の要領で、これまで植栽した苗の観察会と整備作業を実施いたします。軽作業ですので、山吹沢は初めての方も、どうぞご参加ください。なお、当初計画していた植林作業は、来年以降に検討いたします。

日 時 十一月一日(日)

集 合 西武秩父駅前 8時30分

持ち物 雨具・昼食・飲み物

参加費 1000円

(マイクロバス利用の場合2000円)



■ 2009年下期活動スケジュール

- ① 第25回和名倉山森づくりワーク
期日：10月10日（土）～11日（日）
集合：8：30 西武秩父駅前
内容：ブナの苗植林・作業路整備・仁田小屋整備・
植林した苗の状況確認
- ② ドングリ拾い・苗畑整備
期日：10月18日（日）
集合：9：00 西武秩父駅前／野上駅
内容：ブナ・ミズナラのドングリ拾い／苗畑整備・
播種作業
- ③ 紅葉の山吹沢観察会・植林樹手当
期日：11月1日（日）
集合：8：30 西武秩父駅前
内容：植林樹の生育確認・ツル切り等苗木管理作業
- ④ 百年の森交流会
期日：11月3日（火）12：00より
会場：埼玉大学百年の森テラス
内容：交流会／芋煮・秩父大滝名物中津芋
- ⑤ 和名倉山・仁田小屋 小屋仕舞い
期日：11月21日（土）～22日（日）
集合：8：30 西武秩父駅
内容：植林地観察・整備／仁田小屋整備
- ⑥ 第10回エコサロン公開講座
期日：12月12日（土）17：20～
会場：埼玉大学大宮ソニックシティカレッジ
内容：演題「環境倫理」
講師 豊岡 了 埼玉大学名誉教授
- ⑦ ブナ苗を掘り出して冷温保存する作業
期日：12月20日（日）9：00～15：00
集合：9：00 長瀬苗畑／秩父鉄道野上駅
内容：苗の掘り出し／冷温保存処置作業

■ 現会員（会員番号 氏名 住所）2009.4.1～9.30

920 相沢久美子 皆野町／921 上条恵美 塩尻市／922 岸田陽子 東京都北区／923 生澤富代 さいたま市／924 逸見文男 秩父市／925 逸見直美 秩父市／926 福田脩二 葛飾区

和名倉百年の森 第18号 2009年10月1日発行

発行者：NPO 法人百年の森づくりの会 内藤勝久

NPO 法人百年の森づくりの会 事務局

〒330-0063 さいたま市浦和区高砂三丁目1-2-9 農林会館地下1階 TEL/FAX：048-831-1469

http：//www.100nen-forest.org e-mail：info@100nen-forest.org